

5.

国際研究ネットワーク

2017 年度

国際研究ネットワーク構築概要

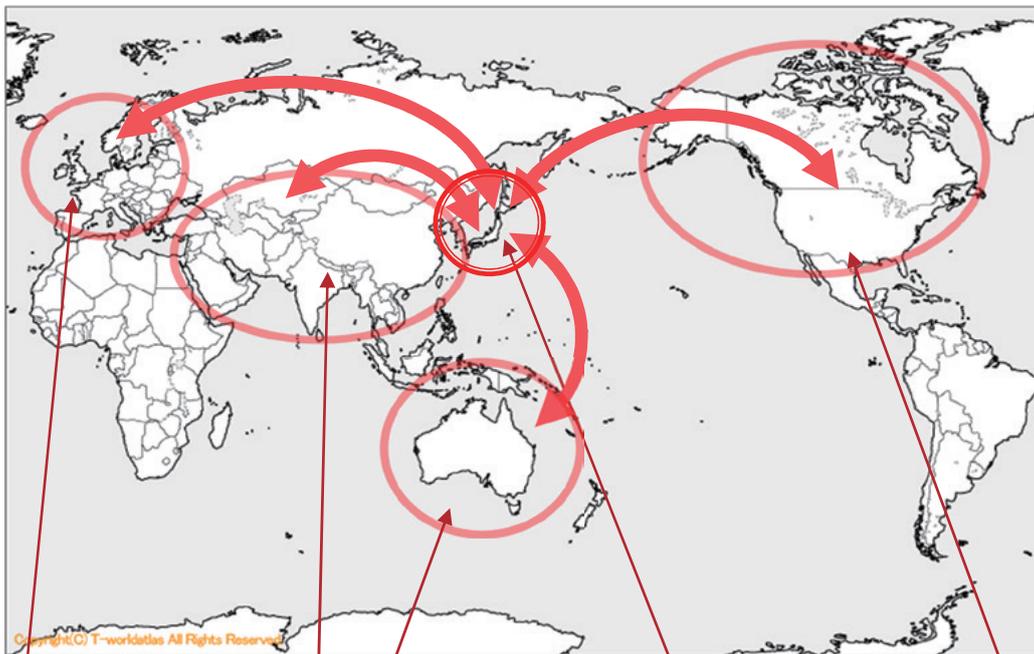
- 1) 国際的な共同研究・研究交流
- 2) 海外研究者フェローシップ受入

▶ 2017 年度国際研究ネットワーク構築概要

6 カ国、12 箇所の研究機関との国際研究・交流ネットワーク

ジェンダー研究所は日本のジェンダー研究のハブとして、国内・海外の研究機関及び研究者らと広くネットワークを構築し、共同研究にも積極的に取り組んでいる。2017 年も、アジア、ヨーロッパ、アメリカの 6 カ国、12 箇所の研究機関及び研究チームと研究交流を行った。とりわけ、韓国ジェンダー政治研究所・国立台湾大学・台湾国立政治大学との国際共同研究チームによる東アジア 3 カ国の国会議員アンケート調査が終了し、分析結果が期待される。また、新しい国際共同研究のパートナーとしてノルウェーの科学技術大学 (NTNU) ジェンダー研究センターとの交流も始まった。これらの共同研究の成果は、国際シンポジウムや出版物を通じて広く社会に還元していきたい。

ジェンダー研究所を拠点とする国際ジェンダー研究ネットワークイメージ



ヨーロッパ	アジア・オセアニア	日本国内	北米
ノルウェー科学技術大学 (NTNU) アルザス・欧州日本学研究所 ストラスブール大学外国語・外国文化学部日本学学科 パリ第 2 パンテオン・アサス大学 《招聘研究者》 <u>ノルウェー</u> グロ・クリステンセン (NTNU) カリ・メルビー (NTNU) プリシラ・リングローズ (NTNU) <u>ドイツ</u> ノラ・コットマン (ハインリッヒ・ハイネ大学デュッセルドルフ) 《特別招聘教授・ドイツ》 アネッテ・シャート＝ザイフェルト (ハインリッヒ・ハイネ大学デュッセルドルフ)	韓国ジェンダー政治研究所 ソウル大学日本研究所 ソウル大学国際問題研究所 韓国女性政策研究院 国立台湾大学 台湾国立政治大学 アジア工科大学院大学 (AIT) 《招聘研究者》 <u>韓国</u> 李珍玉 (西江大学) 権修賢 (慶尚大学) <u>台湾</u> 楊婉瑩 (国立政治大学・台湾) <u>シンガポール</u> 何水霖 (国立シンガポール大学) <u>オーストラリア</u> ローラ・デイルズ (西オーストラリア大学)	「フェミニスト経済学」研究会 政治代表におけるジェンダーと多様性研究会 (GDRRep) 生殖医療で形成される多様な家族と当事者のウェルビーイングを考える研究会 家族とキャリアを考える会 東京大学東洋文化研究所 ジェンダー関連学協会コンソーシアム 《招聘研究者》 計 25 名 (118 頁参照)	日米女性政治学者シンポジウム 《招聘研究者》 <u>米国</u> ジャン・バーズレイ (ノースカロライナ大学チャペルヒル校) 《受入フェロー》 <u>米国</u> ユン ジソ (カンザス大学) マウラ・スティーブンス (ハワイ大学) 《特別招聘教授・米国》 ラウラ・ネンツィ (テネシー大学)

1) 国際的な共同研究・研究交流

【アジア・オセアニア地域】

■ IGS 専任教員・特任教員・特任リサーチフェローによる国際的な共同研究・研究交流

韓国

韓国ジェンダー政治研究所

韓国ジェンダー政治研究所は 1999 年に設立された NPO。政治分野におけるジェンダーギャップを解消するために世論喚起、研究、ロビー活動を行っている当該分野で代表的な民間研究所。

【担当】申琪榮（IGS 准教授）

【共同研究・研究交流の概要】

研究委員、当該研究所の研究活動企画、研究会参加。2016 年度から韓国研究財団から助成金を受託し共同研究を実施。研究課題は「議会内政治的代表制の性差についての公式・非公式制度要因分析：韓国・日本・台湾比較分析」。ジェンダー研究所の「東アジアにおけるジェンダーと政治」研究プロジェクト（24 頁参照）の韓国調査を実施し、その結果をソウル市及び IGS 主催のシンポジウムで報告。共著論文執筆。

ソウル大学日本研究所

日本研究の活性化と日韓相互理解の増進を目標として 2004 年に設立。日本関連資料の収集、国際学術会議、学術活動事業、情報ネットワーク構築、次世代日本専門家の養成等の事業を遂行。

【担当】申琪榮（IGS 准教授）

【共同研究・研究交流の概要】

学術雑誌『日本批評』海外編集委員。

共同研究プロジェクト『思想と文学』共同研究員。

ソウル大学国際問題研究所

ソウル大学政治外交学部に設立され、外交問題や国際政治の研究に取り組む研究所。研究活動の一部として Social Science Korea 「East Asian International Relations Theory」を遂行。

【担当】申琪榮（IGS 准教授）

【共同研究・研究交流の概要】

Social Science Korea 「East Asian International Relations Theory」共同研究員。東アジアの国際関係理論におけるフェミニスト国際政治、日本地域を担当。

韓国女性政策研究院

韓国政府の総理府管轄のシンクタンクとして 1983 年に設立され、女性や家族の問題について包括的な研究を進め、女性の政治参加や福祉の促進に貢献している研究所。

【担当】仙波由加里（IGS 特任リサーチフェロー）

【共同研究・研究交流の概要】

研究所の Associate Research Fellow ジソ・ユン研究員と、日韓の少子化対策としての不妊治療支援についての共同研究プロジェクト『日韓の少子化対策としての不妊治療支援』をすすめ、2017 年 7 月に IAFFE で共同発表した。

台湾

国立台湾大学、台湾国立政治大学

【担当】 申琪榮（IGS 准教授）、黄長玲（国立台湾大学教授）、楊婉瑩（台湾国立政治大学教授）

【共同研究・研究交流の概要】

「東アジアにおけるジェンダーと政治」研究プロジェクト（24 頁参照）の台湾調査。台湾の国会議員アンケートを実施、回収した。113 人のうち、57 人がアンケートに応じた。

国立台湾大学

【担当】 仙波由加里（IGS 特任リサーチフェロー）、Chia-Ling Wu（国立台湾大学准教授）

【共同研究・研究交流の概要】

Chia-Ling Wu 准教授が IGS を訪問。「人口政策としての不妊治療支援に関する日韓の比較研究」研究プロジェクトに関連し、日本と台湾の不妊治療支援の状況について情報交換をした。来年度は日韓・台湾 3 国間の比較研究を検討している。

タイ

アジア工科大学院大学（AIT）環境資源開発研究科「ジェンダーと開発」専攻

1959 年創立で 60 以上の地域から 1700 人以上の学生が学んでいる理工系を中心とした全寮制の大学。校内公用語は英語で、当該専攻はジェンダー視点から開発の問題を研究している。

【担当】 日下部京子（AIT 教授）、足立眞理子（IGS 教授）、申琪榮（IGS 准教授）、板井広明（IGS 特任講師）

【共同研究・研究交流の概要】

本学ジェンダー社会科学専攻院生の AIT 派遣、AIT 院生の日本でのフィールドワーク受入による交換研修プログラム、「AIT ワークショップ」を実施し（122～128 頁参照）、国際的な視点を持った若手研究者の育成および、アジア各国出身学生との研究交流を進めている。

■ 2017 年度招聘研究者

李珍玉（西江大学・韓）

国際シンポジウム「女性の政治参画を阻む壁を乗り越える」（57～59 頁参照）

權修賢（慶尚大学・韓）

国際シンポジウム「女性の政治参画を阻む壁を乗り越える」（57～59 頁参照）

ローラ・デイルズ（西オーストラリア大学・オーストラリア）

国際シンポジウム「日本における独身、ひとり暮らし、ワーク・ライフ・コンフリクト」（60～62 頁参照）

何水霖（国立シンガポール大学・シンガポール）

国際シンポジウム「日本における独身、ひとり暮らし、ワーク・ライフ・コンフリクト」（60～62 頁参照）

楊婉瑩（国立政治大学・台湾）

国際シンポジウム「女性の政治参画を阻む壁を乗り越える」（57～59 頁参照）

【ヨーロッパ】

■ IGS 専任教員・特任教員・特任リサーチフェローによる国際的な共同研究・研究交流

ノルウェー

ノルウェー科学技術大学 (NTNU) ジェンダー研究センター

ノルウェー最大の大学 NTNU に属する、1989 年設立の研究センター。人間関係や文化とジェンダーの関連性およびそれらの変容に着眼した、学際的なジェンダー研究に取り組んでいる。ノルウェー国内のジェンダー研究の中心拠点でもあり、国際的なネットワーク構築も積極的に進めている。

【担当】石井クンツ昌子 (IGS 所長)、小玉亮子 (IGS 研究員)、吉原公美 (IGS 特任 RF)、
佐野潤子 (IGS 特任 RF) ほか

【共同研究・研究交流の概要】

国際シンポジウム「最も幸せな国のジェンダー平等」(2017 年 4 月 25 日)を共同開催(本報告書 50 頁)。
2017 年 9 月に NTNU 訪問し、大学間協定調印と研究会議実施。国際研究助成金共同申請中。

フランス

アルザス・欧州日本学研究所

ヨーロッパにおけるトップクラスの日本学研究所。日欧の多くの大学との研究連携を続けているほか、日本企業の欧州進出支援も行っている。

【担当】足立眞理子 (IGS 教授)、サンドラ・シャール (ストラスブール大学)

【共同研究・研究交流の概要】

国際シンポジウム「モダン再考：戦間期日本の都市空間・身体・ジェンダー」(2017 年 3 月 22 日～3 月 25 日、於：ストラスブール大学)共催。同シンポジウムの内容および共同研究成果を、単行本にて刊行予定(フランス語版)。

ストラスブール大学外国語・外国文化学部日本学学科

フランス・ストラスブール大学外国語・外国文化学部日本学学科は、フランス国内のみならず、EU 全域において、日本学の中心かつ先端的な教育・研究機関であり、多くの留学生受け入れ実績をもっている。なかでも、人文・思想、歴史、経済史、ジェンダー研究で国際的に著名であり、優れた研究業績を上げている。

【担当】足立眞理子 (IGS 教授)

【共同研究・研究交流の概要】サンドラ・シャール氏 (講師) 訪問 (書籍刊行準備)。

パリ第 2 パンテオン・アサス大学

1970 年創立の法律政治経済経営分野学部からなる社会科学系大学。学際的な研究に力を入れている。

【担当】板井広明 (IGS 特任講師)

【共同研究・研究交流の概要】

パリ政治学院のグラントに基づく「ナッジ・プロジェクト」責任者の一人であるアン・ブルノン教授との「ナッジ」に関する共同研究について、オンラインミーティングなどを行なっている。

■ 2017 年度招聘研究者

グロ・クリステンセン（ノルウェー科学技術大学・ノルウェー）

国際シンポジウム「最も幸せな国のジェンダー平等」（50～53 頁参照）

ノラ・コットマン（ハインリッヒ・ハイネ大学デュッセルドルフ・独）

国際シンポジウム「日本における独身、ひとり暮らし、ワーク・ライフ・コンフリクト」（60～62 頁参照）

アネッテ・シャート＝ザイフェルト（ハインリッヒ・ハイネ大学デュッセルドルフ・独）

特別招聘教授（107～109 頁参照）

カーリ・メルビー（ノルウェー科学技術大学・ノルウェー）

国際シンポジウム「最も幸せな国のジェンダー平等」（50～53 頁参照）

プリシラ・リングローズ（ノルウェー科学技術大学・ノルウェー）

国際シンポジウム「最も幸せな国のジェンダー平等」（50～53 頁参照）

【北米】

■ IGS 専任教員・特任教員・特任リサーチフェローによる国際的な共同研究・研究交流 米国

日米女性政治学者シンポジウム（Japan America Women Political Scientists Symposium）

2000 年からスタートしたアメリカと日本の女性政治学者による研究交流ネットワーク。相互にアメリカと日本でシンポジウムを開催し研究交流を行ってきた。日本では IGS がまとめ役を担っている。

【担当】 申琪榮（IGS 准教授）、田中洋美（明治大学准教授）、武田宏子（名古屋大学教授）、岩本美砂子（三重大学教授）、メリッサ・デックマン（ワシントンカレッジ教授）、ジュリー・ドーラン（マカレスター大学教授）、マリアン・パリー（デラウェア大学名誉教授）ほか

【共同研究・研究交流の概要】

2016 年度に開催した IGS 企画の国際シンポジウム『なぜアメリカで女性大統領は誕生しなかったのか？』に参加した登壇者の発表論文を『ジェンダー研究』21 号の特集に掲載する予定。

■ 2017 年度招聘研究者

ラウラ・ネンツィ（テネシー大学・米）

特別招聘教授（104～106 頁参照）

ジャン・バーズレイ（ノースカロライナ大学チャペルヒル校・米）

国際シンポジウム「デモクラシーのポスターガール」（54～56 頁参照）

【日本国内】

■ 関連研究会・連携研究・ネットワーク機関等

○「フェミニスト経済学」研究会

税・社会保障／金融／働き方／「外国人材」のジェンダー分析。日本フェミニスト経済学会(JAFFE)との共催。

〈コーディネーター〉足立真理子(IGS教授)、伊田久美子(大阪府立大学教授)

○政治代表におけるジェンダーと多様性研究会 (Gender, Diversity and Representation (GDRep))

『『政党行動と政治制度』セミナー・シリーズ』実施

〈コーディネーター〉申琪榮(IGS准教授)

〈メンバー〉三浦まり(上智大学教授)、Jackie Steele(東京大学准教授)

○生殖医療で形成される多様な家族と当事者のウェルビーイングを考える研究会

IGS セミナー 生殖領域シリーズを含む、セミナー・シリーズ実施

〈メンバー〉久慈直昭(東京医科大学教授)、清水清美(城西国際大学教授)、

仙波由加里(IGS 特任リサーチフェロー)

○科学研究費 (A) イスラーム・ジェンダー学の構築のための基礎的総合的研究 (研究代表者:長澤榮治)

オックスフォード大学のソラヤ・トリメイン先生を囲んで、「イランにおける生殖補助医療についての研究会」を東京大学駒場キャンパスで実施。研究プロジェクト拠点は東京大学東洋文化研究所。

〈メンバー〉飯塚正人(東京外国語大学教授)、細谷幸子(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所フェロー)、鳥山純子(桜美林大学客員研究員)、他科研メンバー、仙波由加里(IGS 特任リサーチフェロー)

○「家族とキャリアを考える会」

IGS セミナー、IGS 研究会実施

〈メンバー〉牧野カツコ(宇都宮共和大学特任教授)、蟹江教子(宇都宮共和大学教授)、藤田智子(学芸大学准教授)他、佐野潤子(IGS 特任リサーチフェロー)

○国内の女性学・ジェンダー研究センターとのネットワーク

ジェンダー関連学協会コンソーシアムへの参加 ほか

■ 2017 年度招聘研究者

飯野由里子（東京大学）IGS セミナー「合理的配慮をめぐって」（79～81 頁参照）

上村協子（東京家政学院大学）シンポジウム「女性による女性のための経済学事始め」（63～65 頁参照）

大山礼子（駒澤大学）国際シンポジウム「女性の政治参画を阻む壁を乗り越える」（57～59 頁参照）

小熊英二（慶應義塾大学）IGS セミナー「『首相官邸の前で』上映会&トーク」（72～73 頁参照）

表真美（京都女子大学）IGS セミナー「ヨーロッパにおける家庭科教育の現状」（87～88 頁参照）

五野井郁夫（高千穂大学）IGS セミナー「リベラルな国際秩序とアメリカ」（76～78 頁参照）

建林正彦（京都大学）

IGS セミナー「日本の国会議員アンケートから見た議員行動とジェンダー」（82～83 頁参照）

筒井晴香（東京大学）IGS セミナー「性と『ほんとうの私』」（95～96 頁参照）

鳥山純子（日本学術振興会／桜美林大学）

IGS セミナー「中東イスラーム諸国における不妊と生殖医療」（84～86 頁参照）

Mary A. Knighton（青山学院大学）

国際シンポジウム「デモクラシーのポスターガール」（54～56 頁参照）

中山智香子（東京外国語大学）IGS セミナー「リベラルな国際秩序とアメリカ」（76～78 頁参照）

根村直美（日本大学）IGS セミナー「合理的配慮をめぐって」（79～81 頁参照）

スコット・ノース（大阪大学）

国際シンポジウム「日本における独身、ひとり暮らし、ワーク・ライフ・コンフリクト」（60～62 頁参照）

グレゴリー・ノーブル（東京大学）

国際シンポジウム「女性の政治参画を阻む壁を乗り越える」（57～59 頁参照）

濱本真輔（大阪大学）

IGS セミナー「日本の国会議員アンケートから見た議員行動とジェンダー」（82～83 頁参照）

星加良司（東京大学）IGS セミナー「合理的配慮をめぐって」（79～81 頁参照）

細谷幸子（東京外国語大学）

IGS セミナー「中東イスラーム諸国における不妊と生殖医療」（84～86 頁参照）

前田幸男（創価大学）IGS セミナー「リベラルな国際秩序とアメリカ」（76～78 頁参照）

牧野カツコ（宇都宮共和大学）IGS セミナー「ヨーロッパにおける家庭科教育の現状」（87～88 頁参照）

ケネス・盛・マッケルウェイン（東京大学）

IGS セミナー「世論調査において「改憲」は何を意味するか」（70～71 頁参照）

松野尾裕（愛媛大学）シンポジウム「女性による女性のための経済学事始め」（63～65 頁参照）

三浦まり（上智大学）

国際シンポジウム「女性の政治参画を阻む壁を乗り越える」（57～59 頁参照）

IGS セミナー「日本の国会議員アンケートから見た議員行動とジェンダー」（82～83 頁参照）

三牧聖子（高崎経済大学）IGS セミナー「リベラルな国際秩序とアメリカ」（76～78 頁参照）

八幡（谷口）彩子（熊本大学）シンポジウム「女性による女性のための経済学事始め」（63～65 頁参照）

渡辺浩（東京大学）

IGS セミナー「日本における男らしさの表象」（89～90 頁参照）

2) 海外研究者フェローシップ受入

日本学術振興会外国人特別研究員

Yoon Jiso (カンザス大学準教授)

【受入担当】 申琪榮 (IGS 准教授)

【受入期間】 2015 (平成 27) 年 8 月 10 日～2017 (平成 29) 年 6 月 10 日

【研究テーマ】 日本の地方政治における女性の政治的代表性の研究 (本報告書 27 頁参照)

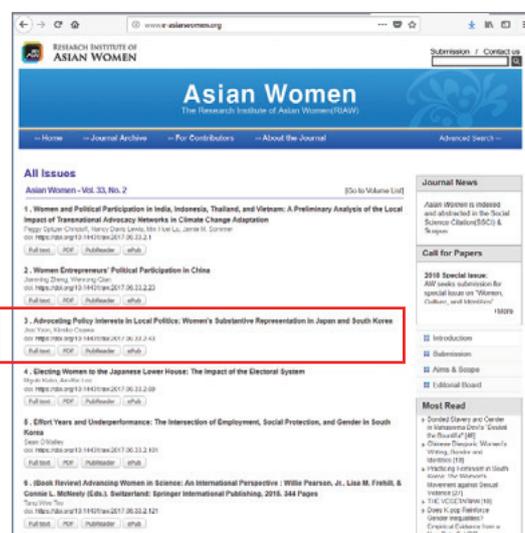
2017 年度の研究成果

本年度は、これまでの 2 年間に渡る研究の総括となる論文「Advocating Policy Interests in Local Politics: Women's Substantive Representation in Japan and Korea」を、大澤貴美子氏 (岡山大学) との共著で執筆し、淑明女子大学校アジア女性研究所刊の英文学術誌『Asian Women』(33 号 (2)、43～67 頁) で発表した。論文はオンライン公開されている (<http://www.e-asianwomen.org/>)。

本論文では、ソウル市議会と東京都議会における、女性の政治的表現と、一般に「女性の課題」とされる政策について発言する議員の性別や所属政党の相関などを、本会議や委員会の議事録を基に分析し、ソウルと東京間で見られる共通点や相違点を明らかにしている。

このほか、下記 2 件の IGS 研究プロジェクトにも参加しており、研究所研究者らとの共同研究に取り組んでいる。

- ・「東アジアにおけるジェンダーと政治」研究 (本報告書 24 頁参照)
- ・人口政策としての不妊治療支援に関する日韓の比較研究 (本報告書 31 頁参照)



『Asian Women』 <http://www.e-asianwomen.org/>

国際交流基金フェロー

Maura Stephens (ハワイ大学博士課程大学院生)

【受入担当】 棚橋 訓 (IGS 研究員・お茶の水女子大学教授)

【受入期間】 2017 (平成 29) 年 9 月 14 日～2018 (平成 30) 年 8 月 31 日

【研究テーマ】 日本における生理の経験に関する医療人類学的研究

2017 年度の研究成果

月経という普遍的な経験は、女性個人の日常生活にさまざまな影響を与えるだけでなく、月経をめぐる衛生用品の市場という経済的側面、月経を抱える女性たちの生活・労働環境をめぐる政治的側面、そして月経という現象を根幹において意味づける医学・医療の側面など、さまざまな社会的領域に関連する複合的な事象である。それゆえ、本研究は、日本社会を事例として、この複合的事象としての女性の月経 (すなわち日本の「生理」) の現在を、実証的なフィールドワークにおいて捉え、これを医療人類学の立場から分析することを目的とする。

2017 年度に、お茶の水女子大学の人文社会科学研究所の倫理審査委員会の審査を経て、東京圏在住・通学の女子大学生への、月経を中心とした経験や知識についてのインタビュー調査を開始した。質問紙を使用しながら聞き取りを行う半構造化の個人インタビュー方式で、5 人から話をきいた。2018 年度にも女子大学生へのインタビューを続ける予定である。

2018 年度には、個人インタビューに加え、生理用品製造企業や広告会社の作り出す月経のイメージについての調査を併行して行う予定である。生理用品の開発者や対象企業の従業員へのインタビューと、現在の広告やデジタルアーカイブの資料収集を実施する計画である。現在、対象企業として想定しているのは、花王、ユニ・チャーム、プロクター・アンド・ギャンブルといった大企業ならびに、布ナプキンの製造・販売などを事業とする小規模企業である。生理用品の製造に関わる規則や標準規格を調査するために、日本衛生材料工業連合会の代表者へのインタビューも計画している。